

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室

[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [ロバート・オウエンの思想⑤](#)[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

### ロバート・オウエンの思想⑤

オウエンの考えていた「協同村」とはどんな村だったのか。  
ラナーク州への提案報告書に計画の概要と細目が書かれている。  
協同村建設に際し検討が必要な項目は以下のようなものであるとしている。

- 1、各個人および共同体に最大の利益を与えることのできる協同組合の適当な人数。
- 2、このような協同組合によって耕作される土地の面積。
- 3、住民に住居・食事・被服を世話し、子どもを躾け教育する制度。
- 4、諸施設を作り、これを管理する制度。
- 5、余剰生産物の処理および一般社会との関係。
- 6、これら施設と国の政府および一般社会との関係。

現代と時代背景が異なるので理解する難しさはあるが、オウエンは農業と工業の統一を考えていた。  
また協同村の規模は人々の最大幸福を考えており、その大きさを競うものでもなかった。  
人間の自然生活に合致したものであり、全員が共同で働き、共同で成果を利用することのできる規模でもあった。  
オウエンはその人数を、800から2000人としている。

私たちは混沌とした時代を生きている。  
現代の私たちが取り組む諸問題の解決にはとてつもない知恵や努力が必要だ。  
私たちは先人の苦闘の末に見出した成果のなかに、現代にも生きるその光を見つかる努力も加えたい。  
オウエンの理想社会を現代版に焼き直してチャレンジするのも面白いだろう。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

**Worker's Library 会員登録**  
お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.